



苫小牧市議会議員
小山 征三

通信

『夏』号
2020年 7月

小山せいぞう事務所 苫小牧市ときわ町1丁目19-23 TEL0144(67)8255

一般・特別・企業会計で11億2,468万3千円の補正予算を可決

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔み申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。また、感染拡大の防止にご尽力されている医療関係者をはじめとした多くの皆さまに心から感謝申し上げます。

令和2年5月25日に緊急事態宣言が全都道府県で解除となりましたが、長期化が予測されることを踏まえ、市議会議員として感染拡大防止に一層努めてまいります。

第7回市議会定例会は6月11日(木)から6月19日(金)まで開かれ、新型コロナウイルス感染予防に係る専決処分の報告と補正予算の議案審議を実施。報告15件、議案28件、諮問1件、意見書2件、その他の議事2件の審議が行われました。

今議会では、新型コロナウイルス感染症の対応に関する質問として、情報の管理、感染病棟の対策、災害発生時の避難所運営、ごみ収集事業、霊葬場の在り方、小中学校の休校に伴う対応、青少年の健全育成、町内会の運営と活動、新型コロナウイルス感染症の影響による雇い止め、市内中心部の経済復興、新しい生活様式の考え方などが取り上げられ、議論が行われました。

《行政用語》 教えて!どっち?

国際リゾートか、国際観光リゾートか

今年度、岩倉市長が掲げた市政方針では「成長戦略の1つである臨空ゾーンにおける国際観光リゾートの形成は、雇用の創出や地域経済の活性化に大きく寄与するものであり、今後もIR(カジノを含む統合型リゾート)誘致へのチャレンジを継続するとともに、国際リゾート構想の具現化に向けて、市街地の魅力を向上させるためのエリアコンセプトを策定し、交流人口の増加につなげる」考えが示されました。

しかし、6月17日の総務委員会で示された「人口ビジョン及び総合戦略(案)」では、国際観光リゾートの形成により新たな雇用機会の創出を目指すとしていました。質疑の中で、国際リゾートと国際観光リゾートの違いを聞いたところ、総合政策部長から基本的には同義と考えているとの答弁がありました。行政用語として2つの同義語が存在するのは、いかがなものかと指摘。

翌日に行われた総合開発特別委員会において、岩倉市長に国際リゾートと国際観光リゾートの違いを訪ねたところ「これまで国際観光リゾートと表現したのは観光が根付く気配がなかった苫小牧に観光産業という概念を根付かせたいという強い思いがあった。今後は国際リゾート構想という表現に統一する」との答弁がありました。

また、昨年10月の臨時会において予算化された「国際リゾート構想環境影響調査費」を使って、まとめられた「環境影響評価調査結果報告書(概要版)」が提出されました。私は、概要版であることから原本の閲覧を求めたところ、議会終了後に閲覧できるようにする方針が示されました。

北海道新聞 2020.6.19

IR凍結市長「0%」

市議会 野鳥の保全措置で疑問も

苫小牧市議会は18日、総合開発特別委員会を開き、カジノを中心とする統合型リゾート施設(IR)候補地の植苗地区の環境調査結果について議論した。市側は貴重な動植物などに配慮した上で「100歩以上の事業用地を確保できる」と説明したものの、野党からは動植物の保全措置などに疑問の声も上がった。また岩倉博文市長は「IR誘致の凍結について」(考えは)「0%」と述べた。

民主クラブの小山征三氏は「いま取り組むべきは新型コロナウイルス対策だ」と指摘し、IRなど国際リゾートに関する議論の当面の凍結を提案した。これに対して岩倉市長は「私はまったく逆の考え方。こういう時だからこそいろいろな議論をやっていくべきだ」と説明。観光振興がコロナ収束後の経済再生にとって重要課題になるとの認識を示し、誘致凍結の考えはないことを強調した。

I R議論凍結、市長「0%」

国際リゾート構想環境影響評価調査結果報告書には、開発に対する市の前向きな考え方が多く含まれており、市側が予算提案時に「データに基づく客観的な評価をする」としていた環境影響調査とは乖離がある。そのため客観的とは言い難いと指摘しました。市側は「報告書原本と市の考え方は別になっている」と述べましたが、実際は、苫小牧市としてまとめたもので原本にも市の考え方が含まれていると訂正。「データに基づく客観的な評価をする」として提案したものを歪曲すべきではないと思います。

カジノを含む統合型リゾート施設（IR）誘致については、北海道が当面の事業化を断念しています。国の方針では事業者の公募を今夏に始める予定ですが、新型コロナウイルスの影響で国の整備手続きは遅れ、先行きが不透明な中、岩倉市長は「引き続き挑戦」する考えを示しています。今、苫小牧市が優先すべきは①新型コロナウイルス感染防止の緊急対応②感染症に対する今後の備え③市内の中小企業支援一であり、訪日外国人旅行者需要の回復はその後であることからIR議論の当面凍結を求めました。岩倉市長は「こういう時だからこそいろんな議論をやっていくべき」とし、凍結する考えは「0%」と述べました。しっかりと現実を見極めるべきではないでしょうか！



7月臨時議会に盛り込んだプレミアム付商品券事業

事業名	対象者	発行種別
プレミアム付商品券事業	購入を希望する全世帯	一般商品券(購入上限一人6冊) 1冊5,000円(プレミアム率20%上乘せ) 500円券×12枚=6,000円
		飲食店&地元店応援チケット(購入上限一人6冊) 1冊5,000円(プレミアム率60%上乘せ) 500円券×16枚=8,000円
高齢者支援商品券 給付事業	今年度に満65歳以上になる全市民	一人あたり1冊送付 500円券×6枚×1冊=3,000円
子育て応援商品券 給付事業	今年度に満18歳以下になる全市民(下記の新生児を除く)	一人あたり1冊送付 500円券×6枚×1冊=3,000円
新生児バースディ商品券 給付事業	令和2年4月28日生まれ～令和2年12月31日生まれの新生児	一人あたり10冊送付 500円券×10枚×10冊=50,000円

希望者全員にPCR検査 **//// いつやるのか！今でしょう！** ////

新型コロナウイルスへの対策が長丁場となることを見据え、感染拡大防止と社会経済活動の両立をどう図るのか。

安部総理は、本年2月29日の記者会見で「PCR検査については、検査がしたくても保健所で断られ、してもらえないという御指摘をたくさん頂いております。・・・すべての患者の皆さんがPCR検査を受けることができる十分な検査能力を確保いたします」と述べましたが、3月3日の参院予算委員会では「今すぐにできるということは全く申し上げていない」と開き直りのような答弁でした。では、いつやるのか！今後の備えとしては、これが最も必要です。「希望者全員がPCR検査を受けられる体制」を確保することが国民生活の不安を解消し、経済活動の活発化にもつながるのではないのでしょうか。

《熱血現場主義》小さなことでも身近な問題を地域から発信します！

小山征三

検索

